

令和3年3月18日

保護者の皆様

仙台市立長命ヶ丘小学校
校長 鈴木 淳

学校重点目標・協働型学校評価重点目標のアンケート結果について（お知らせ）

春色の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、今年度、本校では昨年度に引き続きめざす児童像を「支え合う子、助け合う子、学び合う子、きたえ合う子」、また、協働型学校評価重点目標を、「めあてに向かって挑戦し続け、自分に自信を持つ子供を育てる」と設定し、学校・家庭・地域が協働して取り組んでまいりました。

その取組についての成果を確認するために、保護者の皆様、児童、教職員を対象にアンケートを実施しましたが、その結果についてお知らせします（別紙）。なお、保護者の皆様のアンケート回収率は、92.3%（昨年77.8%）でした。また、アンケート結果をもとに、学校評議員・学校関係者評価委員の皆様にも、貴重なご意見をいただきました。

本校は、多くの皆様にご評価いただきました結果を真摯に受け止め、来年度も、教職員一同、一層努力し、教育活動に取り組んでまいりたいと思っております。保護者の皆様には、今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1 アンケートの分析と取組の振り返りの概要

＜家庭学習への取組＞

家庭で効果的だった取組を具体的に書いていただきました。学習のめあてに向けて家庭でも工夫して取り組んでいることが分かりました。ご理解とご協力に感謝します。

【例 ・1年間の目標を書いて張っている ・自を書くことが苦手だったが、毎日褒めながら取り組ませたところ、苦手意識がなくなってきた。・時間を決めてストップウォッチで図って宿題をする。 ・とにかく子供の話を聞いてほめる 等々 】

＜学校行事＞

コロナ禍において主な学校行事が中止となり残念であるという意見が多く見られました。本校を取り巻く状況等から中止を含む変更や実施を検討してきました。来年度は、コロナ禍における学校行事の実践に向けて、今年度、取り組めなかった行事について、工夫・検討をしながら、ねらいをしっかりと決めて取り組んで参ります。

＜学 習＞

学習では、指導の方法や宿題の在り方、個別の対応についてのご意見をいただきました。学校の現状（人的・物的環境）を踏まえ、さらに改善できることについて、来年度に対応してまいります。

【 具体的内容 ・少人数指導の在り方 ・個別指導の在り方 ・家庭学習の在り方 等々 】

＜豊かな心の育成について＞

「優しい心で接しようとすることができましたか」という設問に、児童・保護者・教員も、肯定的な回答の割合が伸びていました。今年度、校内研究で道徳に取り組んでおり、道徳の授業づくりや子供たちへの声掛け、授業のつくり方など、丁寧な指導、対応を心掛けた成果の一つと捉えています。

<進んで考える・進んで発表するについて>

今年度は学力検査がなかったので成績では比較できませんが、割合が増えたと言えます。これは、授業の工夫、個別指導等に取り組んでいる点を理由と考えますが、さらに学力向上に向けた指導方法改善に努めます。

<健やかな体の育成について>

肯定的回答が少し減っています。コロナ禍にあっても外遊びを奨励したものの、思うように外遊びをしなかった児童もあり、評価が低くなっています。ただ、「よくできた」と答えた割合が、児童・保護者で若干増えており、進んで運動している子は、割合としては増えているのではないかと捉えています。

<挨拶>

昨年度の「す・げ・え」挨拶から、「ど・れ・み」の挨拶に変わり、評価が下がっている児童もいますが、逆に「よくできた」と答えた評価が増えています。「元気に」という内容から、「と・れ・み」の挨拶の趣旨を理解し、挨拶の質が向上したと捉えることができます。

<挑戦することについて>

保護者も教職員も、「よくできた」の割合が下がっていますが、児童は変わっていません。これは、学校行事がなかったために、子供たちが成長した様子を、保護者が実際に見る場面がなかったことが要因として考えられます。しかし、子供たちは、学校行事がなくても、学校生活の中で自分のめあてを立てて頑張ってきたと言えます。

<自己肯定感について>

若干ですが、意識が高くなっています。教室の中で友達の良いところを発表する等の具体的な称賛の積み重ねで、昨年よりも高くなったことにつながったと思われます。

<いじめ対応>

保護者のみを対象としていますが、昨年同様高い評価を得ている反面、「できていない」との評価が少し増えています。児童の心の安全を確かなものにするために、より一層のいじめ対策・対応に努めます。

2 学校評議員・学校関係者評価委員の皆様より（ご意見）

- ・前回より、低学年、特に1年生が座って授業していました。授業が受けられる体制に成長しています。高学年は、集中して授業に取り組んでいました。
- ・コロナ禍の不安な時期で、ストレス等を抱えながら学習しているのではないかと心配していたが、不安が吹き飛びました。
- ・学校で目標に設定している「自分の考えを表現する力」は、言うのはやさしいが、実現は難しいです。自己肯定感が育まれないと、表現力も伸びないのかなと思います。表裏一体ではないが、どちらも大切だと思います。
- ・アンケートを見ると、家庭の中でも、子供たちに声掛けしているという記述があります。学校だけでなく、家庭と連携して子供たちを認めていくということが大切だと思います。
- ・今年は、コロナ禍ということで、行事が少なく、見せ場が少なかったと思います。そのため、学校の先生や家の人に見せる場面が少なかったと思います。心で子供たちを認めていく、家庭の中のコミュニケーションが、子供たちの自信につながっていくと思います。
- ・「聞く力」というものは、家庭の中でも育てていけたらと思います。子供たちが、学校であったことを話せるような家庭環境ができていればよいと思います。
- ・朝食が話題に上げられたが、子供たちの努力で解決できる部分もあるが、家庭の協力を得なければ解決できません。家庭に入りづらくなっている側面もあり、難しいことではあります。PTA等、みなさんの力を借りて、働き掛けを進めることも必要ではないでしょうか。
- ・コミュニティスクールについて、各学校で取組が始まっています。長命ヶ丘は、昔からそのような力が強い地域なので、素晴らしいコミュニティスクールができると期待しています。
- ・学校でやるのが多岐にわたり、増えていると思います。だからこそ、コミュニティスクールとして地域との連携が必要であると感じました。